

## 2016年医科初期研修マッチング報告

～県過去最高 118 名。長崎大学は全国 1027 病院中 6 位、奇跡の「フルマッチ」達成～

長崎大学病院医療教育開発センター 松島加代子・小畑 陽子・古賀 智裕・渡邊 毅  
柴田 英貴・池田 喬哉・宮本 俊之・長谷 敦子・濱田 久之

日頃より医師会の先生方には、研修医の誘致及び教育に対して多大なる支援を頂き、心より感謝申し上げます。

今年度は、長崎県の初期研修希望者が 118 名、前年比 40% 増となるマッチ者数の上昇（増加率日本一）を達成しました。118 名という数字は、2004 年以前の入局制度時代の人数（2003 年は 105 名）を上回る快挙です。

この喜びを皆様と共有すべく、詳細をご報告いたします。

### 1. マッチングとは

2004 年に開始された新研修医制度では、約 9,000 名の医学生と約 1,000 の病院が、マッチングシステムという制度により、研修先が決定される。制度開始により、研修医は都会志向、大学病院離れと市中病院志向が高まり、地方の医療崩壊を招いたとの批判もあった。今年度、全体のマッチ者数の割合は、大学：市中病院が 57.3%：42.7% となった。都市<sup>#1</sup>：地方<sup>#2</sup>の比率は 41.7%：58.3% であった。

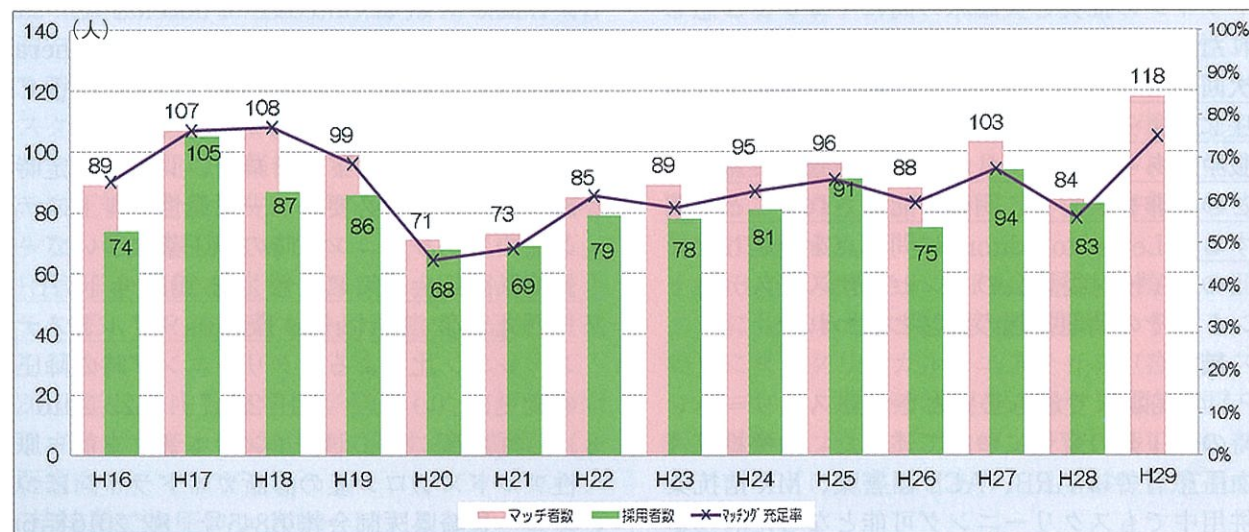


図 1. マッチング & 採用者数推移 (長崎県全体)

※1 都市部：大都市部のある 6 都府県（東京都、神奈川県、愛知県、京都府、大阪府、福岡県）

※2 地方：上記以外の 41 道県

### 2. 県内マッチング数の推移

2004 年に 89 名、2008 年には 71 名と最低を記録し、低迷していた（図 1）。

2010 年に、新・鳴滝塾が結成された。新・鳴滝塾とは、長崎県の行政及び 15 の初期研修基幹型病院より構成され、県内の 17 の病院が一丸となり、研修医の勧誘・指導にあたった。以後、徐々に回復し、本年度マッチングでは 118 名を達成した。

### 3. 県内病院マッチング数

県内でみると、今年、主に増加したのは、長崎大学病院 67 名（昨年比 14 名増）、長崎医療センター 23 名（昨年比 8 名増）であった。県内各プログラム詳細は表 1 のとおり。

病院名称	プログラム名	定員	マッチ者数	空席数
長崎大学病院	長崎大学病院群基本プログラム	66	66	0
	長崎大学病院群周産期重点プログラム	4	1	3
長崎みなとメディカルセンター市民病院	長崎市立市民病院卒後臨床研修プログラム	12	5	7
長崎原爆病院	「日赤長崎原爆病院」卒後臨床研修プログラム	5	1	4
済生会長崎病院	済生会長崎病院初期臨床研修プログラム	4	3	1
上戸町病院	上戸町病院初期臨床研修プログラム	4	1	3
長崎医療センター	独立行政法人国立病院機構長崎医療センタープライマリアケア能力養成プログラム	19	19	0
	独立行政法人国立病院機構長崎医療センター周産期研修プログラム	4	4	0
諫早総合病院	諫早総合病院初期臨床研修プログラム	5	3	2
市立大村市民病院	市立大村市民病院（基幹型）群臨床研修プログラム	2		2
長崎県島原病院	長崎県島原病院卒後臨床研修プログラム	3	1	2
佐世保市総合医療センター	佐世保市総合医療センター卒後臨床研修プログラム	14	10	4
佐世保中央病院	佐世保中央病院初期臨床研修プログラム	4	1	3
長崎労災病院	長崎労災病院卒後臨床研修プログラム	3	2	1
佐世保共済病院	佐世保市医師会ルネッサンスプラン 佐世保共済病院初期臨床研修プログラム	2		2
長崎県五島中央病院	長崎県五島中央病院 卒後臨床研修プログラム	3		3
長崎県上五島病院	長崎県上五島病院 卒後臨床研修プログラム	3	1	2
長崎県計		157	118	39

表 1. 長崎県研修プログラム別マッチング数

### 4. 増加の要因を分析

マッチ者数の増減は多数の要因が考えられる。要因 1) 長大の 6 年生の増加と卒前との連携、関連病院の努力

現長崎大学 6 年生は昨年 104 名で、今年 124 名と 20 名増加しており、定員数の増減は当然影響する。

また、長崎大学医学部の方針により大学の外での実習を促進しており、これにより早い段階（4、5、6 年生）から関連病院での短期及び中期間の実習が可能となった。医学生は、長崎の様々な病院を知ることになり、さらに関連病院の先生方の熱心な指導に触れることとなった。今年の特筆すべき結果としては、佐世保市総合医療センターのマッチングが、0→5→10 名と 3 年連続著明な増加している点である。これも長大医学部の卒前教育との連携の成果と思われる。

#### 要因 2) 県外から医大生の誘致の成功 (図 2)

昨年 33 名で、今年 49 名と 16 名増加した。東京、大阪、福岡の説明会を主体に、スタッフで手分けをして説明ブースを出展している。また、長崎県内各病院への見学を推進、交通費補助を整備している。また、県外からの 250 名超の見学者全員へ、個別に臨床研修の概要説明や最新情報を継続して提供している。この動向に関しては、新・鳴滝塾の活動が大きく影響している。新・鳴滝塾

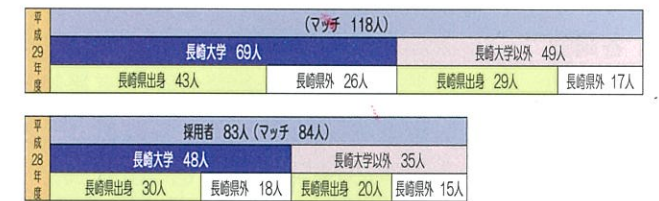


図 2. マッチ者の長崎県出身者・長崎大学出身者の内訳 (H29・28 年度)

は主に、①病院見学・受験の際の見学旅費サポート、②合同説明会・就職フェア（福岡、大阪、東京）への出展、③指導医の育成、など。このような活動を通して長崎県での研修をアピールし、研修医を誘致することを目的として、年間通じて活動している。

#### 要因 3) 新専門医制度に関する情報提供

2018 年より新専門医制度が導入されるが、全国の情報や長崎県のプログラムの状況をいち早く伝え、安心して後期研修ができることを医学生へ説明した。情報は随時アップデートして周知している。

#### 要因 4) 開業医の後継者への情報提供

個人情報のため詳細なデータは把握できないが、県外からマッチした医大生の半数近くは、開業医等の医療関係者の御子弟のようである。これは、大学および関連病院と医師会の先生方の協力体制がうまく機能した結果と思われる。また、長崎県の医療を紹介する長崎県医師会報による情報提供



も少なからず影響していると思われる。医療関係者の御子弟は、長崎県の医療を担っていく人材であり、初期研修の段階から長崎に戻り、各診療科の現状を研修・理解してもらった上で、将来の地域医療を担っていただくことは重要と考える。

要因5) 県内の教育の質の向上

他県と比較しても、長崎県において指導医力は目を見張るものがあり、研修指導は質が高い。これは、臨床研修を評価する第三者機構であるNPO法人卒後臨床研修評価機構の評価でも高いものを得たことで証明されている。

長崎大学病院は2014年に卒後臨床研修評価機構による評価を受審した。2014年3月1日付の講評を一部紹介する。

貴院は本邦最古の医学校として、その歴史と伝統に恥じない、確固とした臨床研修を実践しています。先ずはこのことに感銘を受けました。各講座ないし各診療科の思いがそのまま表現され、勢い不統一となりがちな大学病院の卒後教育について、医療教育開発センターの設置とそこへの集中的な権限の付与によって問題解決を図り、統制された研修を実現していることは特筆に価します。(中略)

質の高さを医学生が評価してくれ、今回のマッチングの結果へつながったと思われる。下記に、長崎大学および関連病院の特色ある取り組みを挙げる。

特色①ポートフォリオシステムの導入

ポートフォリオとは、経験した症例や勉強したデータ、レポートなどをまとめてファイルにしたものである。研修修了時には研修の軌跡がすべて含まれることになる。当院では2011年から導入し、研修修了のために必須の項目チェック表のほか、指導医との相互評価表や多職種からの評価、日々のアドバイスの記録が含まれており、対話型の活用を重視している。ポートフォリオの運用は当院研修の特色のひとつである。

特色②大学でのメンター制度の導入

当院では、研修医1名につき、メンター(指導者)1名を指名してもらっている。毎年60名を超える指導医がメンター候補として立候補してくれる。メンターとなった指導医は、1年間定期的

臨床研修病院名	マッチ者数	(募集定員)	順位(全国)
東京大学	127	(127)	1
東京医科歯科大学	119	(119)	2
京都大学	81	(81)	3
筑波大学	77	(90)	4
神戸大学	68	(74)	5
長崎大学	67	(70)	6
和歌山県立医科大学	65	(81)	7
九州大学	65	(69)	7
杏林大学	65	(65)	7
大阪市立大学	64	(65)	10

表2. 平成29年度全国1,027病院中、マッチ者数上位10位病院ランキング

にメンティー(研修医)とコンタクトをとり、円滑な研修ができていないか確認をする。よき先輩として、研修医の相談相手となってくれており、研修に関わる日々の問題、進路、個人的な相談など内容は多岐にわたっているようである。メンター制度が円滑にまわっていることも、珍しい取り組みであるため、県外からの問い合わせも多く、情報提供とともにメンター制度導入のサポートを行っている。

特色③指導医講習会の実施

指導医講習会の受講は指導医の資格に必須であり、厚労省が指針を提示している。長崎大学病院群として独自に開催することで、さらに指導医向上のスキルや指導医同士のつながりを重視した長崎オリジナルの内容に更新している。

5. フルマッチとは

フルマッチとは、研修医定員数に対して、それ以上の応募者があり、定員を100%満たした状態をいう。県内では、長崎医療センターの2つのプログラムと長崎大学病院基本プログラムがフルマッチとなった。

長崎医療センターは、全国的に有名人気市中病院の地位をしっかりと確立している。

全国上位は、都会の病院ばかりのなか、長崎大学病院は、地方では快挙の成績で、全国1,027病院中6位となった(表2)。

6. 今後の展望

好調のご報告を申し上げたものの、本来は単年度で一喜一憂するものではなく、この状況が安定して継続できるとは限らない。来年度の長崎大学の医学部6年生は、今年度より20名以上減り、マッチングに確実に影響すると思われる。また、新・鳴滝塾の予算は、今年度大きく削減され

(4,160万→2,000万)、県外での誘致活動や見学生に対する旅費の補助も縮小せざるをえない状況である。その影響もあってか、すでに県外からの県内の病院への見学生は減少傾向である。

今後は、医師会と大学と関連病院、そして行政が一致団結し、創意工夫しながら、長崎県をさらに盛り上げていかなければならない。

長崎を選んでくれた初期研修医・後期研修医に、来てよかったと実感してもらえる医療体制をつく

ることは、長崎県の発展につながると信じている。

最後に、本誌に連載された小説「フルマッチ」の通り、長崎県に若人が集まる結果に結びつけられて、医師会の先生方には重ねて感謝申し上げます。来年も良いご報告ができるよう、我々医療教育開発センタースタッフ一同、尽力してまいります。

今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

